

# 資源ごみの売却実績



図2と表2は資源ごみの売却量と売却金額の推移を表しています。売却量は大きく変わりませんが、売却金額には違いが見られます。これは、資源ごみの売却単価が毎年変動するためです。

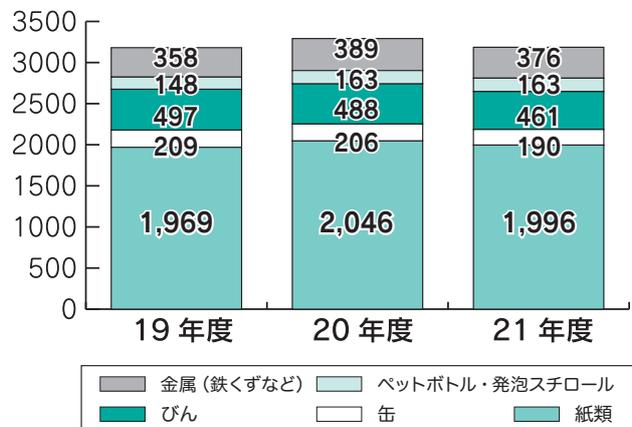
平成21年度は、世界的不況の影響を受け、売却単価が下がったため、20年度と比べて約3,000万円（約43%）減少しています。

表2から、特に紙類・缶の売却金額が大きく下がっていることがわかります。



▲資源ごみの半分以上を占める紙類。

【図2】資源ごみの売却量の推移（単位：トン）



【表2】資源ごみの売却金額（単位：万円）

	19年度	20年度	21年度
紙類	2,968	3,872	1,776
缶	1,590	1,591	862
びん	101	104	110
ペットボトル・発泡スチロール	645	577	441
金属類（鉄くずなど）	890	1,100	945
合計	6,194	7,244	4,134

# ごみ処理経費



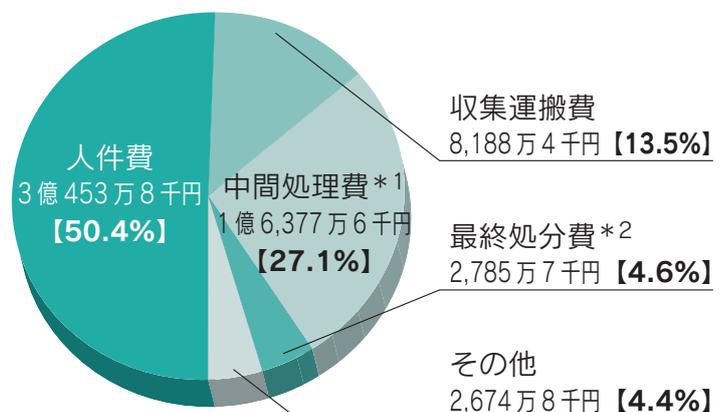
平成20年度のごみ処理経費は約6億480万3千円で、内訳は図3のとおりです。1年間に1世帯当たりで約2万1,600円、1人当たりでは約9,100円掛かったことになります。また、1トンのごみを処理するのに約2万3,200円掛かったことになります。

現在の焼却施設は、稼働して約28年になります。老朽化した施設整備のほか、収集・埋め立てなどごみを適正に処理するために、維持管理費が必要となります。

\*1【中間処理費】焼却・焼却灰処理など  
\*2【最終処分費】埋立・不燃ごみ処理委託など

【図3】ごみ処理費の内訳（平成20年度）

◎総額：6億480万3千円



【平成21年3月31日現在】

人口66,777人/世帯数27,992世帯/年間ごみ排出量26,072トン